

人とつながる 願いが広がる ～地域のホタルとのかかわりを通して～ (小4～5年)

上田市立東小学校 吉池直樹 (現:NPO法人カタリバ)

担任の願い 子どもの「願い」をつないだ活動にし、「地域」と直接つながれるような総合的な学習の時間をめざす
 → 子どもたちには、「願い」が達成される充実感と、「地域」とのかかわりから得られる学びを味わってほしい

きっかけの思い 「人のためになることをしたい」「みんなの役に立ちたい」 → 「ごみ拾い」をしたい
 「きれいな街にしたい」 「きれいな川・自然にしたい」

学校近くの公園のごみ拾い (5月)

- ◇ 思っていたよりもゴミが多かった。
- ◇ いっぱい拾ってきれいな上田市にしたい。
- ▶ このまま1年間ゴミを拾い続けることになるのか??

「川をきれいにしたい」「生き物が暮らしやすい川にしたい」
職員室での情報 「東小のそばにホタルが飛ぶ川がある」
 T児「おばあちゃんちのすぐそば」「先生、一緒に来て見てみて」
 ・ 来月(6月)には「ほたる祭り」が開かれるという案内
「みんなでホタルを見に行きたい」



ホタルを観る会 (6月) ～押出川流域自治会事務局長 柳澤さんとの出会い～

- ◇ どんどんホタルがいたから、すごいきれいだなと思いました。
- ◇ 川をきれいにしている人のおかげでホタルが見られるんだとわかりました。
 ～「**押出川(おたしがわ)のホタルを守りたい**」という願いの高まり～
- ◇ T児「ホタルの卵や幼虫を見てみたい」
- ◇ ホタルを飼っていいかや、清掃活動のことなど、**柳澤さんに聞いてみたい。**

柳澤さんとお話の会 (7月) ～願いのずれに直面～

- みなさんには、まずホタル水路(支流)のカワニナを捕って、押出川の本流に移す活動をしてほしい。
- 1年を水槽で過ごすより、押出川の自然の中でホタルに過ごしてほしい。=「**押出川のホタルは押出川の中で育てる**」
「難しいことがいっぱい」「それでもホタルを育てたい」

教室でのカワニナ飼育 (8月～)

- ・ 押出川の支流にあたるホタル水路にカワニナをとりに行き、柳澤さんからお借りした大水槽で飼育
- ・ サワガニなどの水生生物も飼育
- ・ 生き物にすずんでかかわるT児



クラス替えまで1か月 どうする?ホタルのゆくえ (2月)

- ◇ T児の願い「**押出川に放したい**」
- ◇ 押出川に放せば恩返しになるけど、**柳澤さんの目的はもともと押出川にいるホタルをふやすこと**だから、下塩尻のホタルを放しているのか迷っている。
- ◇ 押出川に放すと、人工的にホタルを増やすことになってしまう。それは、**柳澤さんの思いとはちがってしまう**と思う。
「柳澤さんのお話を聞きたい」

ホタルの幼虫がやってきた! (11月)

- ・ 上田市下塩尻桜づつみホタル会の宮下会長さんを通して、幼虫20匹をいただけることになった。
- 「**ホタルの幼虫を最後どこに放せばよいか**」が議論になる。「**押出川**」か「**下塩尻の水路**」か。
- ◇ 押出川に放せば、「**押出川のホタルを増やす**」というクラスの願いをかなえることができる。
- ◇ クラスに協力してくれている柳澤さんのためにも、**押出川にホタルを放したい。**
- ◇ ホタルを飼いたいという願いをかなえてくれた宮下さんに感謝をこめて、**下塩尻に返したい。**

これまで出会った、「人(柳澤さん・宮下さん)」「もの(ホタル・生き物・カワニナなど)」「こと(川の環境)」を根拠に語る子どもたち



柳澤さんとお話の会 (2月)

- 下塩尻の水路の水は、**押出川と同じ神川水系の水**
- ホタル水路には今ほとんどホタルが飛ばない。**自然に増やすことは難しいので、放流すれば増える。**

クラス全員・柳澤さん・宮下さん、みんなが納得するために、その思いを確かめ、自分たちの願いと重ねて考える

結論【幼虫全部をホタル水路に放流する】

ホタル・カワニナの放流会 (3月)

- ・ 「まだ幼虫がここにいる」と言いながらその場をなかなか離れないT児。
- ◆ 願いの達成を実感できた放流会
 → 「**6月になったら、またみんなでホタルを見に行きたい**」



2回目の「ホタルを観る会」(翌年度6月)

- ・ ネットに引っかかったホタルを助けるT児。
- ◆ 決して増えたとはいえないホタルの数を、「増えた」と感じている子どもたち
- ◆ 重みを増す1つの光

